令和８年度授業改善推進プラン（調査結果分析シート）

西東京市立保谷小学校

全国学力学習状況調査（小学校第6学年）

	課題が見られた問題の概要	正答率	調査結果を踏まえた成果	調査結果を踏まえた課題
国語	【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く	38.1%	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項については、良好な結果が見られ、児童が漢字の語句の意味や言葉の性質や働きについて理解を深めていることがうかがえる。日頃の学習を通して、言葉に関する基礎的な知識や技能が着実に身に付いている。	A「話すこと・聞くこと」及び「書くこと」の領域において、自分の考えを整理し、目的や相手に応じて分かりやすく伝えたり、理由や根拠を明確にして文章に表現したりする力に課題が見られる。今後は、自分の考えを伝え合う活動や、根拠を明確にして書く活動を充実させ、表現力の向上を図る必要がある。
	傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する	51.2%		
	〈音声〉の下線部の工夫の効果として適切なものを選択する	57.1%		
	【動画の一部】の太線囲みの部分の工夫として適切なものを選択する	57.1%		
算数	ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ。	34.5%	都かつ国より正答率が高い問題が2問あった。（1）「数を四捨五入して、概数で表す」これは、４年時における学習で重点的に指導したことや、ベーシックドリル診断テストの定期的な実施による成果と考える。 （2）「示された情報を基に、数量関係に着目して、条件に合う時間を求める」これは、図に表したり、数直線図で考える活動時間を多くとるようにしてきたためと考える。児童の実態によって重点化したり、図などに表す活動は有効であったと考える。	全16問中都を上回った問題は、2問だけある。これは、全都的に平均以下である。特に、単位量あたりの大きさを求める除法の意味の理解、帯グラフから割合を読み取ることが定着していない。基礎・基本の定着に重点を置く指導を行っているが、十分でないことが分かる。学年及び加配の指導者が集団の実態を把握し、情報交換しながら定着しない課題についての習熟時間を設定することが大切である。また、ドリルパークを活用しながら、下位層児童の個別指導の時間確保も課題である。
	帯グラフから、「いっしょに話ができたこと」の割合が約何%かを選ぶ。	72.6%		
	全員分のアンケートが整理されていない学級を見付け、その根拠となる人数を表1と表2の中から書く	54.8%		
	1,5,9の3枚のカードを当てはめてつくることのできる最も大きい数を書く。	92.9%		